

加地邸（葉山）

このコーナーではスクランブル調査隊メンバーが関わったり、探訪した、神奈川県内の歴史的な建物やまちなみを紹介します。

葉山は湘南のなかでも、明るく心地よいところです。逗子駅からバスで15分程の加地邸（三井物産ロンドン支店長加地利夫氏の別宅）は、帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトの愛弟子だった遠藤新39歳の頃の作

品です。遠藤の建物は他にもいくつかありますが、加地邸は、家具・照明に至るまでトータルで設計され、それがほとんど全て竣工時のままの姿をとどめているという点で、驚きと称賛に値します。



外観は、重厚な大谷石と、薄く軽やかな屋根が水平を強調し、不思議なコントラストのハーモニーが聞こえてきそうな感じなのです。内部は、スキップフロアや部屋と部屋をつなぐ廊下が、どこをとっても同じ形がなく、たい

へんリズムカルなのです。テラスに面した吹き抜けのリビングが中央にあり、二階には三面ぐるりが窓で、海が臨める部屋があります。庇の出は、かなり苦労したように思えます。一見RCのキャンティレバーのように見える深い庇は、軒裏がルーバーになっていて、さほど部屋が暗くはならないのです。あくまで、プレーリーハウスのように、空を屋根のエッジで切り取り



たかったのでしょうか。

正面のテラスの上は硝子ルーフになっています。棟には換気口もたくさんあり室内環境にも気を配っていたことがうかがえます。

加地邸が建てられた昭和3年ごろは、湘南地域でも数々の素晴らしい邸宅が建てられましたが、近年ひとつ、またひとつと姿を消していくのは寂しい限りでした。

しかし、最近になって、加地邸は新しい主人を迎えました。爽やかな若い実業家のご夫妻です。奥様は、近所の方と、草むしりなどしてらっしゃる、と明るく話されていました。ですから、本当は、旧加地邸なのですが、今回は近隣に親しまれた呼び方をそのまま使いました。加地邸（というニックネームのキュートな建物）が、様々な人に愛されている証拠かもしれません。また、さらに次の世紀も愛されてほしい、と願わずにはいられません。

<概要>

名称：加地邸（別宅）

所在地：三浦郡葉山町

敷地面積：1,129.52㎡

床面積：364.38㎡

建設年：昭和3年（1928）

構造：木造 2階建て（一部地下1階RC造）

屋根：銅板（変形瓦棒葺き+平葺き）

（スクランブル調査隊 内田 美知留）

